

熊本商工会議所・第32回 経営動向調査

平成16年6月期 結果報告書

業況DI マイナス26.4 対前期比9.4ポイントの改善

～前回（3月期）調査で一時的に後退したものの、

今回調査では小幅ながらも回復傾向に～

調査結果のポイント

全業種の業況DIはマイナス26.4で、前回（平成16年3月期）調査との対比では、プラス9.4ポイントの改善となった。

前回（3月期）調査から業況が好転したのは、4業種で小売業が28.9（プラス26.4ポイント）、飲食業が41.7（プラス21.9ポイント）、卸売業が30.4（プラス8.7ポイント）、サービス業が20.5（プラス5.8ポイント）となった。

また業況が悪化した業種は2業種で、建設業（土木）が50.0（マイナス11.1ポイント）、製造業が29.0（マイナス2.1ポイント）であった。なお、建設業（職別・設備）は、4.2（±0.0ポイント）で前回調査と同じであった。

今回の調査で業況を全体的に見ると、業況DIは26.4と依然としてマイナスの低水準で推移しているが、前回調査に比較して改善の傾向となっている。特に小売業は、前回調査で55.3と大きなマイナスの数値であったが、今回は28.9と大幅に改善した。

調査対象期間 平成16年4月～6月（平成16年度第1四半期）

調査期間 平成16年6月21日（月）～25日（金）

調査対象数 熊本市内 小規模企業 292事業所

回答数 195事業所（回答率66.8%）

（小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業）

（業種別回答状況）

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	32	86.5
建設業(土木)	22	14	63.6
建設業(職別・設備)	34	24	70.6
卸売業	35	23	65.7
小売業	71	45	63.4
飲食業	23	12	52.2
サービス業	70	45	64.3
合計	292	195	66.8

DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(3月期)調査と比較した概況

全業種

受注・売上・客単価がやや改善したなかで、仕入(原材料)単価は悪化。売上高はやや改善し営業利益も改善した。全体の業況は依然として厳しいマイナスの状況にあるものの、前回(3月期)調査からやや改善した。

業況DIの変化 16年3月期 35.8 16年6月期 26.4

製造業

受注単価がやや悪化し、また原材料仕入単価も大きく悪化。売上高がやや悪化したものの、コスト削減等から営業利益は大きく改善となった。しかし全体の業況は、ほぼ横ばいであった。

業況DIの変化 16年3月期 26.9 16年6月期 29.0

建設業(土木)

受注単価がやや改善したなかで仕入単価は大きく悪化。売上高がやや悪化し、営業利益は大きく悪化した。全体の業況は、悪化した。

業況DIの変化 16年3月期 38.9 16年6月期 50.0

建設業(職別・設備)

受注単価、仕入単価ともにやや悪化。売上高が大きく悪化し、営業利益も悪化した。全体の業況は、前回(3月)調査から不変となった。

業況DIの変化 16年3月期 4.2 16年6月期 4.2

卸売業

仕入単価が悪化したなかで、売上単価はやや改善。売上高が大きく改善したものの、営業利益は前回(3月期)調査から不変であった。全体の業況は、やや改善した。

業況DIの変化 16年3月期 39.1 16年6月期 30.4

小売業

仕入単価がほぼ横ばいながら、客単価は改善。売上高が大きく改善し、営業利益も大きく改善した。全体の業況は、大きく改善した。

業況DIの変化 16年3月期 55.3 16年6月期 28.9

飲食業

客単価がやや悪化し、仕入単価も悪化。売上高が改善し、営業利益も改善した。全体の業況は、大きく改善した。

業況DIの変化 16年3月期 63.6 16年6月期 41.7

サービス業

客単価がやや悪化し、仕入単価(材料等)も悪化。売上高がやや改善し、営業利益も改善した。全体の業況は、やや改善した。

業況DIの変化 16年3月期 26.3 16年6月期 20.5

業種別の業況一覧

上段=対前期比

下段=対前年同期比

業種	今回調査 (平成16年6月期)	前回調査 (平成16年3月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	26.4	35.8	+ 9.4
	32.5	38.0	+ 5.5
製造業	29.0	26.9	2.1
	33.3	34.6	+ 1.3
建設業 (土木)	50.0	38.9	11.1
	28.6	38.9	+ 10.3
建設業 (職別・設備)	4.2	4.2	± 0.0
	8.7	4.2	4.5
卸売業	30.4	39.1	+ 8.7
	43.5	39.1	4.4
小売業	28.9	55.3	+ 26.4
	44.4	53.2	+ 8.8
飲食業	41.7	63.6	+ 21.9
	50.0	72.7	+ 22.7
サービス業	20.5	26.3	+ 5.8
	22.7	31.6	+ 8.9

来期(7月~9月期)の業況見通し

全業種における来期(平成16年7月~9月期)の業況見通しDI値は、21.8と今期(16年4~6月)の業況DI値26.4と比較して4.6ポイントのプラスとなった。数値的には大きくないものの、全体としては明るい業況見通しとなっている。

業種別では、来期の業況見通しDI値と今期の業況DI値を比べると、プラスとなった業種は、製造業、サービス業、建設業(土木)、小売業、飲食業の5業種となっている。特に製造業では11.8ポイント改善し、期待感が大きくなっている。なお、卸売業は30.4から、さらに10.5ポイントのマイナスで業況の悪化が見込まれている。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	来期業況見込み (16年7~9月期)	今期の業況 (16年4~6月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	21.8	26.4	+ 4.6
製造業	17.2	29.0	+ 11.8
建設業(土木)	41.7	50.0	+ 8.3
建設業(職別・設備)	5.0	4.2	0.8
卸売業	40.9	30.4	10.5
小売業	22.0	28.9	+ 6.9
飲食業	40.0	41.7	+ 1.7
サービス業	11.1	20.5	+ 9.4